

ツツガムシ病とは

- ツツガムシ病は、ダニの一種ツツガムシによって媒介される。
- 患者は、汚染地域の草むらなどで、有毒ダニの幼虫に吸着され感染。
- 吸着時間：1～2日。ダニから動物への菌の移行にはおよそ6時間以上が必要
- 潜伏期：5～14日
- 症例：39℃以上の高熱を伴って発症
皮膚には特徴的なダニの刺し口（写真2）がみられ、
その後数日で体幹部を中心に発疹（写真3）がみられる

※刺し口や発疹の写真は[国立感染症研究所のホームページ（ツツガムシ病とは）](https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html)をご覧ください。
（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>）

日本紅斑熱とは

- マダニは幼ダニ、若ダニ、成ダニのいずれも哺乳動物を刺咬し、吸血する。
- 自然界で保菌あるいは感染動物は本症のリザーバー（感染巣）となり、動物（げっ歯類や野生のシカなど）→ダニ→ヒトの感染もある
- 潜伏期：2～8日
- 症状：頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症する。発熱、発疹（写真2）、および刺し口（写真3）が主要三徴候であり、ほとんどの症例にみられる。
- ツツガムシ病との臨床的な鑑別は困難である。ツツガムシ病では発疹が主に体幹部にみられるのに対し、本症では体幹部より四肢末端部に比較的強く出現すること、またツツガムシ病に比べ、刺し口の中心の痂皮部分が小さいなどの特徴がある。
- 検査所見：CRPの上昇、肝酵素（AST、ALT）の上昇、白血球減少および血小板減少などがみられる

※刺し口や発疹の写真は[国立感染症研究所のホームページ（日本紅斑熱とは）](https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/448-jsf-intro.html)をご覧ください。
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/448-jsf-intro.html>)

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

SFTSは2011年に中国の研究者らによって発表されたブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新しいウイルスによるダニ媒介性感染症。

患者報告：2013年1月国内で海外渡航歴のない方がSFTSに初めて罹患

潜伏期間：感染後6日～2週間

症状：発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）

頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、
皮下出血、下血などの出血症状

検査所見：白血球減少、血小板減少、AST・ALT・LDHの血清逸脱酵素の上昇
血清フェリチンの上昇や骨髄での血球貪食像も認められることがある

致死率：6.3～30%との報告あり

感染経路：マダニ（フタトゲチマダニなど）を介したものが中心

血液等の患者体液との接触により人から人への感染も報告されている